

ぎふ最前線 拠点長に聞

—社会貢献活動に力を入れている。

「JTは事業活動に自然由来の原料を使用している。取り組みは事業を支える自然の恵みへの感謝に加え、地域貢献を果たしたいとの思いから始まった。2005年には環境保全の一環として、JTの森活動をスタート。樹木の健全育成、多様な広葉樹の森づくりを通じた水源林の保全、里山再生支援を目的に、現在は全国9カ所で展開している。岐阜県内では08年、県や中津川市と一緒に『JTの森 中津川森づくり実行委員会』を組織し、地元森林組合の協力も得て間伐や植栽活動を行ってきた。

日本たばこ産業岐阜第二支店長 竹内修氏

たけうち おさむ



【略歴】1994年4月入社。食品事業部、東京支店企画部、東京支店北部第二支店長代理兼JT東京バレー部監督を経て、2018年10月から現職。趣味はウォーキング。49歳。

た。20年には、JTの森活動を含むさまざまな分野で個別に進んできた活動をさらに発展させるため、リシンクプロジェクトを開始し、社会貢献、地域貢献への動きを推し進めている。—コロナ禍で活動に変化があったのでは。

「春と秋の年2回開いている中津川市でのJTの森活動。昨年は実施できず、今春はオンライン併用での開催を計画した。だが、中継を予定していた会場がまん延防止等重点措置の延長で使用できなくなり、断念した。今秋の活動は13日に、初めてオンラインで実施する。手入れが進む森林の現状を県立森林文化アカデミーの専門家に診断してもらい、その様子の中継する。

森づくり「地域とともに」

現地と参加者をつなぐ進行役は、レゲエ歌手で服飾ブランドのプロデュースを手掛けるRYUREX(リュウレックス)さんが務める。実地体験はできないが、どこからでも参加できるオンラインの利点を生かしたい。

—オンライン配信に地域貢献をどう盛り込むのか。

「地元の人々が積極的に参加することで、持続可能な森林整備が根付くと考えている。そのため、オンライン配信では中津川市の魅力と伝統を発信する機会にもしたい。毎年4月に開催される杵振り踊りは地元にとって大切な文化で、収録した小中学生らによる踊りの映像を配信。市の地場産品も紹介する。今後は配信で技術協力してくれた企業など、関わりのできた県内の皆さんにも参加してもらえ、よつ活動を継続、発展させたい」